

宮城県特別支援教育将来構想実施計画（後期）について

1 策定の経緯

平成 27 年 3 月に策定した特別支援教育将来構想は、計画期間を平成 27 年度から令和 6 年度までの 10 年間とし、前期 5 か年について実施計画（前期）を策定して事業を進めていたところ。令和 2 年 3 月で前期 5 か年が終了することから、後期 5 か年の実施計画（後期）を策定し、その着実な実施と進行管理を図るもの。

【審議会の開催状況等】

令和元年	7 月 1 2 日	第 1 回宮城県特別支援教育将来構想審議会
	1 0 月 3 0 日	第 2 回宮城県特別支援教育将来構想審議会
令和 2 年	1 月 2 2 日	第 3 回宮城県特別支援教育将来構想審議会
	2 月 1 0 日	答申

2 実施計画（後期）の概要

I はじめに

- 各事業に達成目標や取組方針を設定。年度毎に自己評価を実施

II 実施計画（前期）の振り返り

- 実施計画前期の取組に対する成果と課題を整理

III 各学校等の現状と課題

- 各学校種における特別支援教育の現状と課題を整理

【小・中学校における課題】

- ・特別支援学級に在籍する児童生徒数の増加
- ・中学校でも教育的ニーズに応じて、通級による指導を受けられる体制
- ・特別支援教育を担当する教員の専門性向上が重要

【高等学校における課題】

- ・通級による指導・入院生徒に対する教育保障の取組が必要

【特別支援学校における課題】

- ・仙台圏域における知的障害種の特別支援学校の狭隘化
- ・視覚支援学校及び聴覚支援学校の学部・学科の見直し

【就学前から学校卒業後まで】

- ・就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制の構築

IV 実施計画（後期）の取組の視点

- 将来構想で掲げる目標達成に向けて、3つの優先課題を設定

優先課題 1 切れ目ない支援体制の確立

優先課題 2 多様な教育的ニーズに対応した教育環境整備の
推進

優先課題 3 インクルーシブ教育システムの構築

V 具体的な取組

- 令和2年度以降の取組と事業内容を掲載

VI 実施計画（後期）の施策体系

- 具体的な取組毎の達成目標・取組方針及び実施年度を記載

3 実施計画（後期）のポイント

- 各事業に達成目標や取組方針を設定し、年度毎に評価を行い適切な進捗管理を実施
- 個別の教育支援計画を活用した幼児期から学校卒業後までの切れ目ない支援体制を整備
- 特別支援学校だけではなく、小・中学校及び高等学校等においても特別な支援を必要とする児童生徒に対する取組を実施
- 障害のある児童生徒と障害のない児童生徒が共に学ぶ教育環境づくりの取組を実施